様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３４３１４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ０１１９３

研究課題名（和文）視覚資料の空間表現に関わる歴史地理学と東洋美術史の学際的研究

研究課題名（英文）An Inter-Disciplinary Work of Historical Geography and East-Asian Art History Over the Areal Expression of Visual Materials

研究代表者
長谷川　奨悟（Hasegawa, Shogo）

佛教大学・宗教文化ミュージアム・その他

研究者番号：１０７２７３４０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本の歴史地理学と東洋美術史の専門的研究者が学際的に協力し、歴史地理学研究において核心的重要性を持つ、視覚資料を対象に、歴史的な視覚資料にみられる空間表現について、その技術的・物理的問題の視点から検討した。近年の欧米圏の歴史地理学や文化地理学において議論が進んでいる視覚資料に関する理論的研究を導入しつつ、日本および東洋の事例について検証・考察を進めた場合、欧米圏の西洋美術史の概説的内容を基礎とする理論的枠組みに依拠した検討には限界が認められる。そこで、日本や東洋世界の事例にみられる資料的特徴や、視覚資料をとりまく社会的背景などをふまえた理論的枠組みの構築に向けた議論に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の学術的な意義としては、これまでほとんど意識されてこなかった視覚資料の構図や色彩といった問題に対して、欧米圏の理論的枠組みを導入しつつ、東洋美術史の研究者とともに歴史地理学における視覚資料の空間表現がもつ表現技法や材料の制約を具体的に検証するとともに、モノをとりまく諸制約、権力性、政治性との関わりを批判的に解明しようとしたことにある。
さらに、これらの研究成果の一端は、研究発表や学術論文を通じて発表するのみならず、佛教大学宗教文化ミュージアムの平常展示での絵葉書などの資料展示を通じて、社会への知的還元の実践を試みた点においても本研究の大きな特徴といえる。

研究成果の概要（英文）：Visual materials such as maps, pictures and photographs have the decisive significances for the study of historical geography. The present research is an inter-disciplinary work by Japanese historical geographers and East-Asian art historians to examine these visual materials’ aerial expressions from technical and material perspectives. Recently, Western Academia has developed research theories over visual materials. However, as these theories have derived from western art history’s criteria, they do not work adequately for the case studies of Japanese and Asian materials. Thus, our project aims to construct a theoretical framework which responds to the historical features or backgrounds of East-Asian materials.

研究分野：歴史地理学

キーワード：歴史地理学　東京美術史　視角資料　空間表現　表現技法　物質性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

地理的事象を視覚化した地図や、景観の様相を留めた絵図、絵画、写真などは、文献史料の分析から提示されてきた内容を違った角度から再検討する手がかりを与えてくれる重要な資料となりうるものであり、歴史地理学では文字以外の資料として視覚資料への注目が俄然高まってきた。さらに、近年の英語圏における歴史地理学研究では、これら視覚資料の内容は必ずしも客観的で自明のものではなく、そこに込められた意図や権力の問題といった社会的側面に注目して批判的に検証することが必要であるとされている（Rose, 2016）。すなわち、その解読には文字資料とは異なる、モノとしての独自の分析方法が必要になると意識されるようになったのである。歴史地理学における視覚資料に関する研究は葛川絵図研究会（1988、1989）や 1980 年代に行われた風景のイコノグラフィー的研究が存在したが、その方法論はテクスト（文章表現）の解釈に用いられる記号論の議論をそのまま援用したものであり、絵画や写真を理解するための理論として、現在では不満のあるものであった。そうした中で、Rose(2016)の議論に出会うとともに、2015 年人文地理学会大会での「視覚性／物質性」と題するセッションに触れるものの、そこでの議論は同様の問題意識を持つ申請者達にとって刺激に富むものであった一方で、視覚資料の物質性が議論されているにも関わらず、やはり視覚資料を構成する表現技術や材質への言及は十分で無かったわけである。そもそも、Rose（2016）は、主に西洋美術史の絵画に関する概説的内容を基礎としている点で限界をかかえるものの、視覚資料そのものが採用する構図や色彩といった要素（イメージそのものの場）も重要であると指摘している。そのため、本研究会の中で、美術史専門の研究者との交流・議論、およびアドバイスの必要性を強く感じることとなった。折しも長谷川は、佛教大学宗教文化ミュージアムで東洋美術史を専門とする熊谷と共同で博物館展示の作業に従事するようになり、東洋美術史専門家の視点から歴史地理学における視覚資料の物質性に関わる議論に対して示唆を得るに至り、両分野の協働による可能性に気づくこととなったことが本研究プロジェクトを立ち上げた背景である。

2. 研究の目的

本研究は、歴史地理学の研究者と東洋美術史の専門的研究者が共同作業を行うことで、視覚資料の空間表現が備える技術・物質的問題を検証し、それが視覚資料の抱える社会的構築性とどのように関わるのか明らかにして行くことを目的とするものである。すなわち、視覚資料の構図や色彩といった問題に対して専門的知見を有する美術史研究者の協力を得て、歴史地理学における視覚資料の空間表現がもつ表現技法や材料の制約を具体的に検証し、こうした制約が権力の意図や社会情勢とどのように関わっていたのかを検討する。これにより、地理学研究が自明視する視覚資料の政治性、権力性を示すとともに、研究自体のありかたを内省する契機を提示することを目指す。

3. 研究の方法

本研究では、視覚資料の空間表現に関する学術雑誌や学術書、博物館美術館等の展示図録や報

告書等を研究資料として収集、分析を通じて研究手法やその成果を整理する。そのうえで、日本の歴史地理学と東洋美術史の専門的研究者が学際的に協力し、英語圏地理学の理論的研究を導入しつつ、研究分担者が日本および東洋世界における事例研究を進める。そこでは、視覚資料の空間表現が備える技術的・物理的問題に関して、(A) 絵画・写真にみる構図や技法、(B) 地図による３次元の表現、(C) 東洋美術史研究を踏まえた空間表現の問題、(D) 博物館展示における視覚資料という 4 つの観点から取り組み、歴史的な視覚資料の空間的表現に対する批判的議論の展開を目指した。

4. 研究成果

（１）絵画・写真にみる構図や技法

まず、視覚資料としての絵画資料については、近世日本における名所地誌本編纂黎明期の作品に位置づけられる『京童』、『洛陽名所集』を事例に、絵画制作時の先行図様の用いられ方に関する日本美術史の理論的枠組みを援用することで、挿絵として掲載される図像の表現技法とその効果を検証し、名所として表現される場所をめぐるまなざし、それを受けて再生産される場所イメージの差異を明らかにした。また、19 世紀の名所図会資料などを事例に、歴史資料の物質性に着目しつつ、伊勢参宮や金毘羅参詣にみられる行動文化の中で用いられた痕跡や可視化される場所性についての議論を展開している。

写真については、奄美大島のカトリック関係の写真資料を事例に、景観復原と写真の撮影目的やそこに反映される教会と地域社会との関係性を言及することができた。また、現代の景観写真をめぐる既存の地理学研究の成果を整理し、これまでほとんど議論されてこなかったデジタル時代のカメラやレンズといった撮影機材とその設定方法に着目し、写真の表現方法に関する議論を展開していくにあたっての指標が得られた。

（２）地図による３次元の表現

視覚資料としての地図に関する検討には、京都大学総合博物館所蔵の地図資料、測量器具類のうち、梅原末治寄贈地形図のコレクションの整理作業を通じて、寄贈されたコレクションの意義を明らかにした。さらに、地形図が有する物質性に着目することで、地形図が研究者を渡り歩き、集約されていくという物質的存在であることを見いだし、これまで不明瞭であった先史地理学の景観復原研究に与えられた考古学の実証性に関わる影響の一端を明らかにすることができた。

（３）東洋美術史研究をふまえた空間表現の問題

東洋美術史をふまえた空間表現の検証として、まず幕末に刊行された『都名所百景』を事例に、作品のディスクリプションやイメージソースをめぐる解釈に基づき、描かれた景観の空間構造と場所性を考証し、東洋美術史の視点から場所イメージや空間表現にアプローチすることの有効性を明らかにした。またチベット密教の立体マンダラ、神護寺所蔵の涅槃図を事例に、方位性を付帯する宗教造形物の空間表現を分析した。とくに作品を設置する条件（方位性）が、その作

品を成立させる要素となる場合の展示・鑑賞のあり方を提示した点を特記する。

（４）博物館展示における視覚資料

博物館展示における視覚資料の問題については、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって規模の大きい視察の実施などはできなかったものの、上記（A）から（C）の研究成果をふまえて検討を重ねた。とりわけ、上記（C）は実際に佛教大学宗教文化ミュージアムで開催された特別展示のなかで展示された資料に対する分析アプローチであるように、同館における展示実践のなかで、展示方法や照明の違いによる視覚資料の見え方や鑑賞者が受ける印象の差異を検証した。そして、平常展示において展示した絵葉書や絵図資料に関する扱い方や解説パネルの制作の場面において、本プロジェクトの成果の一端を反映させることができた。

上記のような研究成果は、歴史地理研究において核心的重要性を持ってきた絵図や地図、写真資料といった視覚資料に対して、新たな研究アプローチを提示したとともに、こういった視覚資料に対する東洋美術史研究との連携による学際研究の有効性を実証した。さらに、近年の欧米圏の地理学研究にみられる視覚資料をめぐる理論的枠組みを日本や東洋世界における歴史資料に対して導入した場合に、視覚資料が置かれてきた社会/文化的背景の違いから、うまく解釈できない部分が少なからず存在することに対して、それを克服する東洋世界という地域的枠組みでの理論や方法論的枠組みを構築するための指標を得ることができたことは、本研究プロジェクトの特徴的な成果といえよう。このように想定した成果は得たものの、コロナ禍の影響で海外での発信や調査については大幅に断念せざるを得なかったのも事実である。そのため、継続して残された課題の解消に努めていく。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計21件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　14件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>網島聖 | ４．巻<br>67 |
| ２．論文標題<br>オンラインは地理学にとってスリリングな課題 | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>地理 | ６．最初と最後の頁<br>16～19 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>熊谷貴史 | ４．巻<br>19 |
| ２．論文標題<br>神護寺所蔵仏涅槃図小考 | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 | ６．最初と最後の頁<br>1～20 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>Hasegawa Shogo | ４．巻<br>74 |
| ２．論文標題<br>2021 Annual Review　Historical Geography: Pre-modern | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>Japanese Journal of Human Geography | ６．最初と最後の頁<br>331～336 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.4200/jjhg.74.03_331 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>麻生 将 | ４．巻<br>2023s |
| ２．論文標題<br>視覚化された無教会主義の思想 | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>日本地理学会発表要旨集 | ６．最初と最後の頁<br>298～ |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.14866/ajg.2023s.0_298 | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>網島聖 | 4．巻<br>11 |
| 2．論文標題<br>『治水神・禹王探求の10年』（記念誌世話人会編） | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>地理 | 6．最初と最後の頁<br>99 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>麻生将 | 4．巻<br>66－4 |
| 2．論文標題<br>写真資料からみた近代奄美大島のカトリック | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>地理 | 6．最初と最後の頁<br>69－77 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>麻生 将 | 4．巻<br>73 |
| 2．論文標題<br>加藤晴美著『遊廓と地域社会―貸座敷・娼妓・遊客の視点から―』 | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>Japanese Journal of Human Geography | 6．最初と最後の頁<br>502～503 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.4200/jjhg.73.04_502 | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>麻生将 | 4．巻<br>12 |
| 2．論文標題<br>写真資料を用いた宗教研究に関する試論―1910～30年代のキリスト教会を事例に― | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>佛教大学歴史学部論集 | 6．最初と最後の頁<br>19－37 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>谷崎友紀 | 4．巻<br>1−1 |
| 2．論文標題<br>近世讃岐の名所と金毘羅参詣に関する基礎的な研究―『金毘羅参詣名所図会』を対象として― | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>観光振興研究 | 6．最初と最後の頁<br>65－72 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>長谷川奨悟 | 4．巻<br>18 |
| 2．論文標題<br>嵯峨広沢の地域性 | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 | 6．最初と最後の頁<br>61－77 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>網島聖 | 4．巻<br>46 |
| 2．論文標題<br>近代都市における同業者町の変遷ー道修町の制度と主体ー | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>鷹陵史学 | 6．最初と最後の頁<br>3-23 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>網島聖 | 4．巻<br>65 |
| 2．論文標題<br>書評『椿井文書ー日本最大級の偽文書ー』馬部隆弘 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>地理 | 6．最初と最後の頁<br>122 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>網島聖 | 4．巻<br>66 |
| 2．論文標題<br>『古地図で楽しむ長崎』大平晃久編 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>地理 | 6．最初と最後の頁<br>100 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>麻生将 | 4．巻<br>666 |
| 2．論文標題<br>近代日本におけるキリスト教と国家神道 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>立命館文学 | 6．最初と最後の頁<br>163-181 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>熊谷貴文 | 4．巻<br>17 |
| 2．論文標題<br>四条の七辻：幕末に描かれた或る京の名所 | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 | 6．最初と最後の頁<br>1-23 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>長谷川奨悟 | 4．巻<br>17 |
| 2．論文標題<br>山本泰順『洛陽名所集』にみる嵯峨野をめぐるまなざし | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 | 6．最初と最後の頁<br>1-25 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>網島 聖 | 4．巻<br>23 |
| 2．論文標題<br>地理学史資料としての地形図 ： 京都大学総合博物館地理作業室収蔵・梅原末治寄贈地形図の検討 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>空間・社会・地理思想 | 6．最初と最後の頁<br>13～35 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.24544/ocu.20200518-005 | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>長谷川奨悟 | 4．巻<br>16 |
| 2．論文標題<br>『京童』にみる中川喜雲の名所観 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 | 6．最初と最後の頁<br>19-43 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>熊谷貴史 | 4．巻<br>16 |
| 2．論文標題<br>立体マンダラ小考：展示に基づく空間表現への視座 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>佛教大学宗教文化ミュージアム研究紀要 | 6．最初と最後の頁<br>1-18 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>麻生将 | 4．巻<br>61 |
| 2．論文標題<br>書評 小口千明・清水克志編『生活文化の地理学』 | 5．発行年<br>2019年 |
| 3．雑誌名<br>歴史地理学 | 6．最初と最後の頁<br>37-39 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>長谷川 奨悟 | ４．巻<br>102 |
| ２．論文標題<br>書評 阿部美香著『歌川広重の声を聴く ： 風景への眼差しと願い』 | ５．発行年<br>2019年 |
| ３．雑誌名<br>史林 | ６．最初と最後の頁<br>895-901 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.14989/shirin_102_895 | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>麻生将 |
| ２．発表標題<br>近代日本のキリスト教集団の排除に関する歴史地理学―1930年代のいくつかの排撃事件を事例に― |
| ３．学会等名<br>第199回アジア・キリスト教・多元性　研究会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>Takashi Amijima |
| ２．発表標題<br>The Expansion of Japanese Pharmacies to North China under the Reorganization of Pharmaceutical Trade Institutions during the Sino-Japanese War (1937-1945) |
| ３．学会等名<br>The 34th International Geographical Congress（国際学会） |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>麻生将 |
| ２．発表標題<br>教会史研究における写真資料に関する試論―1930年の2つの教会の比較から― |
| ３．学会等名<br>キリスト教史学会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>麻生将 |
| ２．発表標題<br>近代日本のミッションスクールをめぐる廃校運動とナショナリズム―1930年代の大島高等女学校を事例に― |
| ３．学会等名<br>日本地理学会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>麻生将 |
| ２．発表標題<br>巡検プログラム「京都とキリスト教ー中世と近代ー」 |
| ３．学会等名<br>Excursion in Japan Study Group 2020 , Colgate university（招待講演） |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>谷崎友紀 |
| ２．発表標題<br>近世京都における旅人の見物経路のGIS分析―『百たらずの日記』を事例として― |
| ３．学会等名<br>人文地理学会 |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>麻生将 |
| ２．発表標題<br>近代日本のミッションスクールをめぐる廃校運動とナショナリズム―1930年代の大島高等女学校廃校運動を事例に― |
| ３．学会等名<br>日本キリスト教史学会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>麻生将 |
| ２．発表標題<br>京都・キリスト教・マイノリティ―戦国から現代― |
| ３．学会等名<br>京都部落問題研究資料センター（招待講演） |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>網島聖 |
| ２．発表標題<br>近代都市における同業者町の変遷ー道修町の制度と主体ー |
| ３．学会等名<br>鷹陵史学会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

〔図書〕　計1件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>山﨑孝史　麻生将　今野泰三　香川雄一　北川眞也　佐久眞沙也加　全ウンフィ　関村オリエ　高木彰彦　畠山輝雄　花松泰倫　福本拓　二村太郎　前田洋介 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>ナカニシヤ出版 | ５．総ページ数<br>242 |
| ３．書名<br>「政治」を地理学する | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 麻生　将<br>(Aso Tasuku)<br>(00707771) | 二松學舍大學・文学部・講師<br>(32664) | |

６．研究組織（つづき）

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 熊谷　貴史<br>(Kumagai Takafumi)<br>(70719723) | 佛教大学・宗教文化ミュージアム・その他<br>(34314) | |
| 研究分担者 | 網島　聖<br>(Amijima Takashi)<br>(70760130) | 佛教大学・歴史学部・准教授<br>(34314) | |

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究協力者 | 谷崎　友紀<br>(Tanizaki Yuki) | | |

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|